

# 一部作業の機械化により、国内で唯一生産している希少性の高い「国産黒落花生」の増産と、新たな商品開発を目指す

事業計画名 設備導入による商品の生産性と収穫量の向上 及び新商品の開発

## 澤田茶園

### 「取り組みの経緯」

1926（昭和元）年に創業。4代にわたり、茶と落花生を製造販売する。仕入れは極力行わず、自家農園で生産、加工、販売をする生産直売店として近在に親しまれてきた。同社がある牛久市女化地区は、関東ローム層と呼ばれる水はけのよい平地が広がり、落花生の生育に適し、県内では有数の産地となっている。

落花生は、繊細な作物で、品質を落とさずに収穫するには、微細な作業工程と細かい配慮が必要とされる。安全安心かつ、品質が良く、甘みののった製品の生産にこだわり、実の掘り起こしから、乾燥、加工まですべて手作業で行ってきた。

しかし、従事者の高齢化と減少から、手作業での生産量の限界という問題に直面。さらに、東日本大震災の風評被害により、茶、落花生ともに売り上げの激減という事態に陥る。そこで、4代目の澤田臣男代表は、売り上げ増加のため、千種類以上もあるという落花生の中から生産販売に適すると思われる30種を選び、試作を重ねた結果、味が香ばしく濃い「黒落花生」の生産を成功させた。従来の物に加えて、独自性と希少性があり、顧客の需要も高い黒



掘り上げた落花生は、逆さにして天日で1週間ほど干し、その後「ぼうちつみ」と呼ばれる葉の付いた状態で手積みして約1カ月乾燥させる。甘みの強い落花生に仕上げる工程

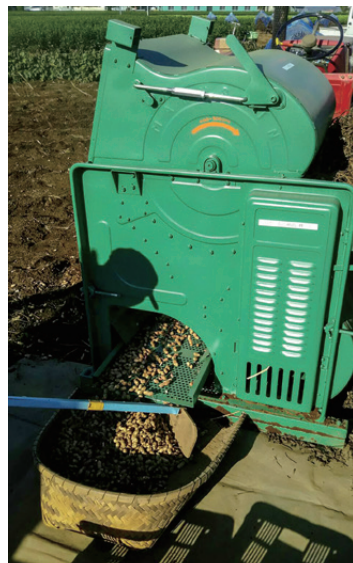
落花生の増産を目指すとともに、人手不足の解消にも対応するため、作業の機械化の模索をした。

### 「事業の具体的内容及び効果」

最もこだわりをもつ、甘みが十分にのった落花生の生産には、収穫した落花生を、葉に実が付いた状態で畑の中に積み上げ、4～6週間をかけて乾燥させる「ぼうちつみ」の工程を省くことはできない。「葉がついた状態で、野干してじっくり乾燥させることで、葉の方から実へと残った栄養分が移動して甘い落花生になる」と澤田代表は話す。繊細な作業なため、機械化は難しい。そこで、落花生を土から掘り上げる、掘取機の導入に踏み切った。近年新たに開発されたもので、国内の落花生



土の中から落花生を掘り上げて収穫する掘取機。大幅な効率アップにつながった



乾燥させた落花生の粒を切り離す脱粒機

### 事業概要

主力商品である「国産黒落花生」は、国内唯一の生産という希少性の高い商品で、高い需要に供給が追いつかない。手作業から機械化することで生産性と収穫量を向上させ、また、黒落花生を使った新商品の開発を行い、さらなる売り上げの拡大を目指す。

### お茶と落花生の澤田茶園

〒300-1214 牛久市女化町30  
TEL.029-872-0307 FAX.029-872-8144  
<http://www.ushikukankou.com/sawadaseicha.htm>  
従業員：4名

生産直売をモットーに、茶と落花生を中心として野菜等を栽培。甘みののった落花生を生産し、中でも希少性の高い「国産黒落花生」は、全国から注目されている。

農家では導入例がなかった。収穫時の品質等に不安もあったというが、状態は良く、家族4人の手作業で行っていた収穫のスピードは格段に向上、約3倍の効率化となった。

掘取機の導入前は約2ヘクタールだった落花生の作地面積は4～6ヘクタールへと大幅に広がり、黒落花生の作地面積も、2,000平方メートルから1ヘクタールに、約5倍の作付けを行うことができた。

生産量の増加に伴い、製品化のため、乾燥した実と葉を分ける脱粒機と、最近話題となっている「茹で落花生」の生産に必要な脱英機も導入。加工の工程でも約3倍の効率向上を実現した。



乾燥させた落花生の莢を切り離す脱英機。茹で落花生への加工用

### 「事業成果の活用・今後の取り組み」

国産黒落花生は薄皮が黒いという見た目のインパクトに加え、薄皮に視覚機能への効果等が期待されている成分、アントシアニンが豊富に含まれていること、味も香ばしくコクがあることから、メディア等でも多く取り上げられ、注目を集めている。機械化で生産量がアップし今後の展開に大きな期待もてる。現在は8ヘクタールの農地を所有するが、人手不足等の理由から半分しか活用していない。今後

は「落花生の産地ではあるが、高齢化や人手不足によって、栽培をやめてしまう人も少なくない。機械化することで作業効率を上げれば、それらの農地でもまた落花生栽培を復活させることもできると考えている。雇用の創出や、この土地の重要な食文化としても残していければ」と澤田代表は未来への展望を話す。



「国産黒落花生」。味が濃く、栄養価も高い、澤田茶園のみで生産される希少性の高い品で、生産と同時に完売する人気商品。増産に成功したことは大きい

### 澤田 臣男さん

澤田茶園 代表



栽培、生産、販売まで、自家農園で行うことが強みです。甘い落花生を生産するというこだわりを崩すことなく、機械化できるところは機械化することで、これからの人材減少と栽培拡大につなげ、味、品質ともに落とすことのない、安心安全かつおいしい落花生をこれからも作り続けていきます。